

# 森林再生の提言

地球環境問題と森林

日時：平成22年10月2日（土） 13:00～15:00

講師：滑志田 隆（東京農業大学客員教授、毎日新聞社名誉職員）

## 概況

---



### ・地球規模の視点から

地球の温暖化、森林の減少、野生生物種(生物多様性)の減少、砂漠化、海洋汚染など地球規模の視点で考える必要のある問題が数多く存在しているが、いずれもこの百年ほどの間に急激に増加した世界人口、人間活動に起因するものである。

まもなく名古屋で COP10 が始まるが、例えばワニについて、1 億 5 千万年前の恐竜の時代から生き延びた生物であるにもかかわらず、第 2 次世界大戦後の 50 年間で 25 種のうち 4 種までもが絶滅が危惧される種になってしまっている。これは、人為的開発によりワニが繁殖するために必要な沼地・湿地が減少したことと、皮革を求めての狩猟・乱獲によるものである。

### ・世界の森林の減少

世界の森林面積は約 39 億 ha で、全陸地面積の約 30%を占めているが、1990 年から 2000 年の森林面積の変化をみると、熱帯地域以外では若干増加しているものの、熱帯地域では急激に減少しており、特に、熱帯の天然林は毎年 1420 万 ha ずつ失われたとされている。

世界の木材(丸太)生産量は 1 年間に 33.5 億 m<sup>3</sup>であったが(2000 年)、開発途上国での薪炭用材が 15.6 億 m<sup>3</sup>も占めており、これは森林が再生されない(植林されない)使用方法であることから、森林を保全する上で重要なキーとなると考えられる。今後は食育ならぬ木育(もくいく)が必要である。

#### ・日本の森林の状況

日本の森林は、全面積の 25,121ha のうち、国有林が約 31%を占めており、国民の森林の働きに対する期待として、「山崩れや洪水などの災害防止」や「水源のかん養」など国民生活の安全や安心につながる森林の機能への期待が最も高くなっている。また、「二酸化炭素を吸収することにより、地球温暖化防止に貢献する働き」にも大きなものがある。一方で、木材生産への期待は、昭和 55 年以降年々低下し、木材自給率は 18%と担当に低い水準である。

#### ・パキスタン カシミール地方における植林協力活動(国土緑化推進機構)

カシミール地方では、冬季には-30℃まで冷え込み、木々が育ちにくい環境にあるが、この希少な緑が燃料として乱獲されたことにより全くの荒地となってしまう。このため年間 3 万本の植樹を行い、この 16 年間でのべ 30 万本の植樹がなされたが、かんがい用水の確保、食害対策、村民の自主自立、在来種の育成に重点を置いてきている。今後の目標・課題として、村民による苗木の自主育成、植林意識の定着、政府機関との連携がある。